

早生のビワ新品種「BN21号」の特性

ビワの新品種「BN21号」は露地栽培の早生品種で、「長崎早生」より果実が大きく、「ひび果」の発生が少ない

背景・目的

- ・ビワは国産果実の端境期に出荷できる果物であるが、5月上旬に出荷できる早生の栽培品種が少ない
- ・露地栽培できる早熟で商品化率の高い品種開発により、収穫期の拡大が期待できる

成果の内容

1 育成経過

育成機関:長崎県農林技術開発センター
果樹茶業部門

交配組み合わせ:「長崎早生」×「涼峰」

品種登録:平成29年8月21日



BN21号の果実

2 樹体特性

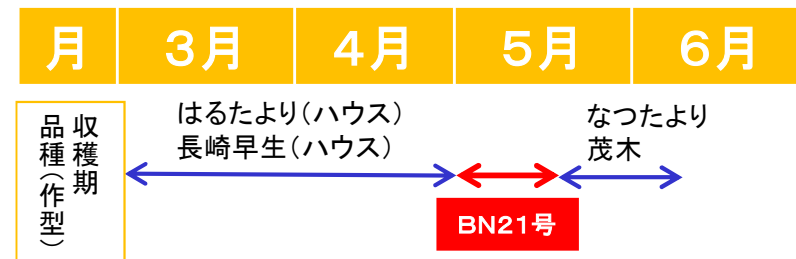
樹勢:中 樹姿:やや直立 着花率:82%(H28,H29中心枝の平均)
出蕾期:9月中~10月中旬, 満開期:11月下~12月上旬, 成熟期:5月上旬

3 果実特性

品種名	果実側面の形	果皮・果肉色	果実重(g)	糖度(° brix)	リンゴ酸(%)
BN21号	短卵形	橙黄	58	12.5	0.17
長崎早生	長卵形	橙黄	49	12.4	0.22

導入メリット

1 既存の品種(作型)との組み合わせで収穫期の分散ができる



2 既存品種より果実が大きく、ひび果の発生が少ないことから、商品化率の向上が期待できる

品種名	果実重(g)	ひび果程度
BN21号	58	5.7
長崎早生	49	29.1

期待される効果

ハウスビワから「なつたより」等中生品種へリレー出荷できる早生品種として有望

普及対象・範囲
ビワ生産者・県本土